

2年課程 新しい介護福祉士養成カリキュラムの基準と想定される教育内容の例（案）

資格取得時の介護福祉士養成の目標						
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 他者に共感でき、相手の立場に立って考えられる姿勢を身につける。</li> <li>2. あらゆる介護場面に共通する基礎的な介護の知識・技術を習得する。</li> <li>3. 介護実践の根拠を理解する。</li> <li>4. 介護を必要とする人の潜在能力を引き出し、活用・発揮させることの意義について理解できる。</li> <li>5. 利用者本位のサービスを提供するため、多職種協働によるチームアプローチの必要性を理解できる</li> <li>6. 介護に関する社会保障の制度、施策についての基本的理解ができる。</li> <li>7. 他の職種の役割を理解し、チームに参画する意義を理解できる。</li> <li>8. 利用者ができるだけなじみのある環境で日常生活が送れるよう、利用者ひとりひとりの生活している状態を的確に把握し、自立支援に資するサービスを総合的、計画的に提供できる能力を身につける。</li> <li>9. 円滑なコミュニケーションの取り方の基本を身につける。</li> <li>10. 的確な記録・記述の方法を身につける。</li> <li>11. 人権擁護の視点、職業倫理を身につける。</li> </ol>						
<p>〔目的〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護を必要とする者に対する全人的な理解や尊厳の保持、介護実践の基盤となる教養、総合的な判断力及び豊かな人間性を涵養する。</li> <li>2. 利用者に対して、あるいは多職種協働で進めるチームケアにおいて、円滑なコミュニケーションをとるための基礎的なコミュニケーション能力を養う。</li> <li>3. アカウンタビリティ(説明責任)や根拠に基づく介護の実践のための、わかりやすい説明や的確な記録・記述を行う能力を養う。</li> <li>4. 介護実践に必要な知識という観点から、介護保険や障害者自立支援法を中心に、社会保障の制度、施策についての基礎的な知識を養う。また、利用者の権利擁護の視点、職業倫理観を養う。</li> </ol>						
カリキュラムの基準				想定される教育内容の例		
教育内容		時間数	ねらい	教育に含むべき事項		
人間と社会	人間の理解	30	「人間」の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う学習とする。	人間の尊厳と自立	人間理解と尊厳	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「人間」の多面的理解</li> <li>・人間の尊厳</li> <li>・自立・自律</li> <li>・権利擁護・アドボカシー</li> <li>・人権尊重</li> <li>・身体的・精神的・社会的な自立支援</li> </ul>
	人間関係とコミュニケーション			人間関係の形成 コミュニケーションの基礎	人間関係と心理 対人関係とコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己覚知、他者理解、ラポール、その他</li> <li>・対人関係・コミュニケーションの意義</li> <li>・対人関係・コミュニケーションの概要</li> </ul>
	社会の理解	60	1. 個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人、家族、近隣、地域、社会の単位で人間を捉える視点を養い、人間の生活と社会の関わりや、自助から公助に至る過程について理解するための学習とする。	生活と福祉	家庭生活の基本機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産・労働、教育・養育、保健・福祉、生殖、安らぎ・交流、その他</li> </ul>
					<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族の概念</li> <li>・家族の変容</li> <li>・家族の構造や形態</li> <li>・家族の機能、役割</li> <li>・家族観の多様化</li> </ul>	
					<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域</li> <li>・コミュニティの概念</li> <li>・都市化と地域社会</li> <li>・過疎化と地域社会</li> <li>・地域社会の集団・組織</li> </ul>	
					<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会、組織の概念</li> <li>・社会、組織の機能、役割</li> <li>・グループ支援、組織化</li> <li>・エンパワメント</li> </ul>	

<p>2わが国の社会保障の基本的な考え方、歴史と変遷、しくみについて理解する学習とする。</p>	<p>社会保障制度</p>	<p>ライフスタイルの変化          ・雇用労働の進行、女性労働の変化、雇用形態の変化          ・少子化、健康寿命の延長          ・余暇時間          ・生涯学習、地域活動への参加          ・その他</p> <p>社会構造の変容          ・産業化・都市化          ・地域社会の変化</p> <p>生活支援と福祉          ・生活の概念          ・福祉の考え方とその変遷          ・自助、互助、共助、公助</p> <p>社会保障の基本的な考え方          ・社会保障の概念と範囲          ・社会保障の役割と意義          ・社会保障の理念</p> <p>日本の社会保障制度の発達          ・日本の社会保障制度の基本的な考え方、憲法との関係          ・戦後の緊急援護と社会保障の基盤整備          ・国民皆保険、国民皆年金          ・社会福祉法          ・福祉六法          ・社会保障費用の適正化・効率化          ・地方分権          ・域福祉の充実          ・社会保障構造改革</p> <p>日本の社会保障制度のしくみの基礎的理解          ・社会保障の財源          ・社会保険、社会扶助          ・公的保険制度、民間保険制度</p> <p>現代社会における社会保障制度          ・人口動態の変化、少子高齢化          ・社会保障の給付と負担          ・持続可能な社会保障制度</p>
<p>3. 介護に関する近年の社会保障制度の大きな変化である介護保険制度と障害者自立支援制度について、介護実践に必要な観点から基礎的知識を習得する学習とする。</p>	<p>介護保険制度</p> <p>障害者自立支援制度</p>	<p>介護保険制度創設の背景及び目的          介護保険制度の動向          介護保険制度のしくみの基礎的理解          ・介護保険制度改革          ・介護保険の保険者と被保険者          ・介護保険の保険給付と利用者負担          ・受給権者(要介護者、要支援者、介護保険法で定める特定疾病)          ・介護サービス利用までの流れ          ・介護サービス等の種類・内容          ・介護サービス情報の公表          ・介護予防の概念</p> <p>介護保険制度における組織、団体の役割          ・国の役割          ・都道府県の役割          ・市町村の役割          ・指定サービス事業所の役割          ・国民健康保険団体連合会の役割</p> <p>介護保険制度における専門職の役割          ・介護支援専門員の役割          ・関連専門職種の種類</p> <p>障害者自立支援制度創設の背景及び目的          ・社会福祉基礎構造改革と障害者施策          ・障害者基本計画、新障害者プラン          ・支援費制度          ・障害者自立支援法の目的</p> <p>障害者自立支援制度のしくみの基礎的理解          ・自立支援給付と利用者負担          ・障害者自立支援制度における事業者及び施設          ・障害者自立支援制度における専門職の役割          ・障害福祉サービス利用の流れ          ・障害福祉サービスの種類・内容</p> <p>障害者自立支援制度における組織、団体の機能と役割          ・国の役割          ・都道府県の役割          ・市町村の役割          ・指定サービス事業所の役割          ・国民健康保険団体連合会の役割</p>

人間と社会		4. 介護実践に必要とされる観点から、個人情報保護や成年後見制度などの基礎的知識を習得する学習とする。	介護実践に関連する諸制度	個人の権利を守る制度の概要  保健医療福祉に関する施策の概要  介護と関連領域との連携に必要な法規  生活保護制度の概要	・個人情報保護に関する制度 ・成年後見制度 ・社会福祉法における権利擁護のしくみ ・消費者保護法 ・高齢者虐待防止法 ・高齢者保健医療制度 ・生活習慣病予防その他の健康づくりのための施策 ・結核・感染症対策 ・難病対策 ・HIV／エイズ予防対策  ・医療関係者に関する法規 ・医療関係施設に関する法規  ・生活扶助、介護扶助
	選択	①生物や人間等の「生命」の基本的仕組みの学習 ②数学と人間のかかわりや社会生活における数学の活用の理解と数学的・論理的思考の学習 ③家族・福祉、衣食住、消費生活等に関する基本的な知識と技術の学習 ④組織体のあり方、対人関係のあり方、(リーダーとなった場合の)人材育成のあり方についての学習 ⑤現代社会の基礎的問題を理解し、社会を見つめる感性や現代を生きる人間としての生き方について考える力を養う学習 ⑥その他の社会保障関連制度についての学習		(例)生物、生命科学 (例)統計、数学(基礎)、経理 (例)家庭、生活技術、生活文化 (例)経営、教育 (例)社会、現代社会、憲法論、政治・経済 (例)労働法制、住宅政策、教育制度、児童福祉	
	小計	240			

〔目的〕

1. 介護サービスを提供する対象、場によらず、あらゆる介護場面に汎用できる基本的な介護の知識・技術を養う。
2. 自立支援の観点から介護実践できる能力を養う。
3. 利用者のみならず、家族等に対する精神的支援や援助のために、実践的なコミュニケーション能力を養う。
4. 多職種協働やケアマネジメントなどの制度の仕組みを踏まえ、具体的な事例について介護過程を展開できる能力を養う。
5. リスクマネジメント等、利用者の安全に配慮した介護を実践する能力を養う。

教育内容	時間数	ねらい	教育に含むべき事項	想定される教育内容の例	
介護の基本	180	「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習。また、介護における安全やチームケア等について理解するための学習とする。	<p>介護福祉士を取り巻く状況</p> <p>介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ</p> <p>尊厳を支える介護</p> <p>自立に向けた介護</p> <p>介護を必要とする人の理解</p> <p>介護サービス</p> <p>介護実践における連携</p>	<p>介護の歴史</p> <p>介護問題の背景</p> <p>社会福祉士及び介護福祉士法</p> <p>専門職能団体の活動</p> <p>QOL</p> <p>ノーマライゼーション</p> <p>利用者主体</p> <p>自立支援</p> <p>個別ケア</p> <p>ICF</p> <p>リハビリテーション</p> <p>人間の多様性・複雑性の理解</p> <p>高齢者のくらしの実際</p> <p>障害のある人のくらしの理解</p> <p>介護を必要とする人の生活環境の理解</p> <p>介護サービスの概要</p> <p>介護サービス提供の場の特性</p> <p>多職種連携(チームアプローチ)</p>	<p>・少子高齢化、家族機能の変化、介護の社会化、高齢者虐待、介護ニーズの変化、その他</p> <p>・介護福祉士の定義</p> <p>・介護福祉士の義務</p> <p>・名称独占と業務独占</p> <p>・養成制度</p> <p>・登録状況</p> <p>・専門職集団としての役割、機能、その他</p> <p>・QOLの考え方</p> <p>・ノーマライゼーションの考え方、ノーマライゼーションの実現、その他</p> <p>・利用者主体の考え方、利用者主体の実現、その他</p> <p>・自立・自律の考え方、自己決定・自己選択、自立支援の考え方、自立支援の具体的展開</p> <p>・生活意欲への働きかけ、エンパワメント</p> <p>・その他</p> <p>・個別ケアの考え方、個別ケアの具体的展開、その他</p> <p>・ICFの考え方、ICFの視点にもとづく利用者のアセスメント、その他</p> <p>・リハビリテーションの考え方</p> <p>・リハビリテーションの実際</p> <p>①病院・施設におけるリハビリテーション</p> <p>②在宅におけるリハビリテーション</p> <p>③介護予防</p> <p>・リハビリテーション専門職との連携</p> <p>・その他</p> <p>・その人らしさの理解(、生活史、価値観、生活感、生活習慣、生活様式等の多様性、その他)</p> <p>・健康、生活のリズム、生活文化、家族・世帯構成、役割、すまいと環境、就労・雇用、収入・生計、社会活動・余暇活動、レクリエーション、その他</p> <p>・障害のある人の生活ニーズ</p> <p>・生活を支える基盤(各種年金制度、生活保護、介護保険)</p> <p>・生活を支えるサービスの現状と課題</p> <p>・その他</p> <p>・生活、生活環境の考え方</p> <p>・家族</p> <p>・地域</p> <p>・社会</p> <p>・ケアプラン、ケアマネジメントの流れとしくみ</p> <p>・介護保険のサービスの種類</p> <p>・サービスの報酬、算定基準</p> <p>・その他</p> <p>・居宅</p> <p>・施設</p> <p>・その他</p> <p>・多職種連携(チームアプローチ)の意義と目的</p> <p>・他の福祉職種の機能と役割、連携</p>

教育内容	時間数	ねらい	教育に含むべき事項	想定される教育内容の例	
			<p>介護従事者の倫理</p> <p>介護における安全の確保とリスクマネジメント</p> <p>介護従事者の安全</p>	<p>地域連携</p> <p>職業倫理</p> <p>利用者の人権と介護 プライバシーの保護</p> <p>介護における安全の確保</p> <p>事故防止、安全対策</p> <p>感染対策</p> <p>介護従事者の心身の健康管理</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保健医療職種の機能と役割、連携</li> <li>・その他の関連職種との連携</li> <li>・地域連携の意義と目的</li> <li>・地域住民・ボランティア等のインフォーマルサービスの機能と役割、連携</li> <li>・地域包括支援センターの機能と役割、連携</li> <li>・市町村、都道府県の機能と役割、連携</li> <li>・その他</li> <li>・介護従事者の倫理</li> <li>・介護実践の場で求められる倫理</li> <li>・その他</li> <li>・身体拘束禁止、高齢者虐待、児童虐待、その他</li> <li>・個人情報保護、その他</li> <li>・観察</li> <li>・正確な技術</li> <li>・予測、分析</li> <li>・セーフティマネジメント</li> <li>・緊急連絡システム</li> <li>・転倒・転落防止、骨折予防</li> <li>・防火・防災対策</li> <li>・利用者の生活の安全(鍵の閉め忘れ、消費者被害、その他)</li> <li>・感染予防の意義と介護</li> <li>・感染予防の基礎知識と技術</li> <li>・感染管理</li> <li>・衛生管理</li> <li>・その他</li> <li>・心の健康管理(ストレス、燃えつき症候群、その他)</li> <li>・身体の健康管理(感染予防と対策、腰痛予防と対策、その他)</li> <li>・労働安全</li> </ul>
<p>コミュニケーション技術</p>	<p>60</p>	<p>介護を必要とする者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族、あるいは多職種協働におけるコミュニケーション能力を身につけるための学習とする。</p>	<p>介護におけるコミュニケーションの基本</p> <p>介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション</p> <p>介護におけるチームのコミュニケーション</p>	<p>介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割</p> <p>利用者・家族との関係づくり</p> <p>利用者・家族とのコミュニケーションの実際</p> <p>利用者の状況・状態に応じたコミュニケーションの技法の実際</p> <p>記録による情報の共有化</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話を聴く技法</li> <li>・利用者の感情表現を察する技法(気づき、洞察力、その他)</li> <li>・納得と同意を得る技法</li> <li>・相談、助言、指導</li> <li>・意欲を引き出す技法</li> <li>・利用者本人と家族の意向の調整を図る技法</li> <li>・その他</li> <li>・感覚機能が低下している人とのコミュニケーション</li> <li>・運動機能が低下している人とのコミュニケーション</li> <li>・認知・知覚機能が低下している人とのコミュニケーション</li> <li>・その他</li> <li>・介護における記録の意義、目的</li> <li>・介護に関する記録の種類</li> <li>・記録の方法、留意点</li> <li>・記録の管理</li> <li>・介護記録の共有化</li> <li>・情報通信技術(IT)を活用した記録の意義、活用の留意点</li> <li>・介護記録における個人情報保護</li> <li>・介護記録の活用</li> </ul>

教育内容	時間数	ねらい	教育に含むべき事項	想定される教育内容の例
			報告 会議	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その他</li> <li>・報告の意義、目的</li> <li>・報告・連絡・相談の方法、留意事項</li> <li>・その他</li> <li>・会議の意義、目的</li> <li>・会議の種類</li> <li>・会議の方法</li> <li>・会議の方法、留意点</li> <li>・その他</li> </ul>
生活支援技術	300	尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。	<p>生活支援</p> <p>自立に向けた居住環境の整備</p> <p>生活の理解</p> <p>生活支援</p> <p>居住環境整備の意義と目的</p> <p>生活空間と介護</p> <p>居住環境のアセスメント</p> <p>安全で心地よい生活の場づくり</p> <p>施設等での集住の場合の工夫・留意点</p> <p>他の職種の役割と協働</p> <p>自立に向けた身じたくの介護</p> <p>身じたくの意義と目的</p> <p>身じたくに関する利用者のアセスメント</p> <p>生活習慣と装いの楽しみを支える介護</p> <p>整容行動、衣生活を調整する能力のアセスメントと介助の技法</p> <p>利用者の状態・状況に応じた身じたくの介助の留意点</p> <p>他の職種の役割と協働</p> <p>自立に向けた移動の介護</p> <p>移動の意義と目的</p> <p>移動に関する利用者のアセスメント</p> <p>安全で気兼ねなく動けることを支える介護</p> <p>安全で的確な移動・移乗の介助の技法</p> <p>利用者の状態・状況に応じた移動の介助の留意点</p> <p>他の職種の役割と協働</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活の定義、生活形成のプロセス、生活経営その他</li> <li>・生活支援の考え方、ICFの視点にもとづくアセスメント、その他</li> <li>・居場所とアイデンティティー、生活の場、すまい、住み慣れた地域での生活の保障、その他</li> <li>・ICFの視点にもとづく利用者の全体像のアセスメント</li> <li>・安全で住み心地のよい生活の場づくりのための工夫</li> <li>(快適な室内環境の確保、浴室、トイレ、台所等の空間構成、プライバシーの確保と交流の促進、安全性への配慮、その他)</li> <li>・住宅改修</li> <li>・住宅のバリアフリー化</li> <li>・ユニバーサルデザイン</li> <li>・その他</li> <li>・ユニットケア、居室の個室化、なじみの生活空間づくり、その他</li> <li>・ICFの視点にもとづくアセスメント</li> <li>・生活習慣と装いの楽しみを支える介護の工夫</li> <li>①整容(洗面、整髪、ひげの手入れ、爪、化粧等)</li> <li>②口腔の清潔</li> <li>③衣服着脱</li> <li>・感覚機能が低下している人の介助の留意点</li> <li>・運動機能が低下している人の介助の留意点</li> <li>・認知・知覚機能が低下している人の介助の留意点</li> <li>・ICFの視点にもとづくアセスメント</li> <li>・安全で気兼ねなく動けることを支える介護の工夫(外出の環境づくり、社会参加、余暇活動、レクリエーション、その他)</li> <li>①歩行の介助の技法</li> <li>②車いすの介助</li> <li>③安楽な体位の保持</li> <li>④体位変換</li> <li>感覚機能が低下している人の介助の留意点</li> <li>運動機能が低下している人の介助の留意点</li> <li>認知・知覚機能が低下している人の介助の留意点</li> </ul>

教育内容	時間数	ねらい	教育に含むべき事項	想定される教育内容の例
			自立に向けた食事の介護	<p>食事の意義と目的</p> <p>食事に関する利用者のアセスメント</p> <p>「おいしく食べる」ことを支える介護</p> <p>安全で的確な食事介助の技法</p> <p>利用者の状態・状況に応じた介助の留意点</p> <p>他の職種の役割と協働</p>
			自立に向けた入浴・清潔保持の介護	<p>入浴の意義と目的</p> <p>入浴に関する利用者のアセスメント</p> <p>爽快感・安楽を支える介護</p> <p>安全・的確な入浴・清潔保持の介助の技法</p> <p>利用者の状態・状況に応じた介助の留意点</p> <p>他の職種の役割と協働</p>
			自立に向けた排泄の介護	<p>排泄の意義・目的</p> <p>入浴に関する利用者のアセスメント</p> <p>気持ちよい排泄を支える介護</p> <p>安全・的確な排泄の介助の技法</p> <p>利用者の状態・状況に応じた介助の留意点</p> <p>他の職種の役割と協働</p>
			自立に向けた家事の介護	<p>家事の意義・目的</p> <p>家事に関する利用者のアセスメント</p> <p>家事に参加することを支える介護</p> <p>家事の介助の技法</p>
				<p>・ICFの視点にもとづくアセスメント</p> <p>・「おいしく食べる」ことを支える介護の工夫(食事を楽しむための食卓の環境づくり、食器の工夫、献立に興味をもってもらう工夫、その他)</p> <p>・感覚機能が低下している人の介助の留意点</p> <p>・運動機能が低下している人の介助の留意点</p> <p>・認知・知覚機能が低下している人の介助の留意点</p> <p>・誤嚥、窒息の防止のための日常生活の留意点</p> <p>・脱水の予防のための日常生活の留意点</p> <p>・ICFの視点にもとづくアセスメント</p> <p>爽快感・安楽を支える介護の工夫(入浴を楽しむ環境づくり、スキンシップ、コミュニケーション、その他)</p> <p>①入浴</p> <p>②シャワー浴</p> <p>③全身清拭</p> <p>④陰部洗浄</p> <p>⑤足浴・手浴</p> <p>⑥洗髪</p> <p>・感覚機能が低下している人の介助の留意点</p> <p>・運動機能が低下している人の介助の留意点</p> <p>・認知・知覚機能が低下している人の介助の留意点</p> <p>・ICFの視点にもとづくアセスメント</p> <p>気持ちよい排泄を支える介護の工夫(がまんさせない工夫、恥ずかしくなく排泄できる環境づくり、その他)</p> <p>①トイレ</p> <p>②ポータブルトイレ</p> <p>③採尿器・差し込み便器</p> <p>④おむつ</p> <p>・感覚機能が低下している人の介助の留意点</p> <p>・運動機能が低下している人の介助の留意点</p> <p>・認知・知覚機能が低下している人の介助の留意点</p> <p>・便秘・下痢の予防のための日常生活の留意点</p> <p>・尿回数が多い人への日常生活の留意点</p> <p>・失禁時の介護の留意点</p> <p>・ICFの視点にもとづくアセスメント</p> <p>家事に参加することを支える介護の工夫(意欲を出すはたらきかけ、その他)</p> <p>①調理(加工食品の活用と保存、配食サービスの利用含む)</p> <p>②洗濯</p> <p>③掃除・ごみ捨て</p> <p>④裁縫</p> <p>⑤衣類・寝具の衛生管理</p>

教育内容	時間数	ねらい	教育に含むべき事項	想定される教育内容の例
			利用者の状態・状況に応じた介助の留意点  他の職種の役割と協働  自立に向けた睡眠の介護 睡眠の意義・目的 睡眠に関する利用者のアセスメント  安眠のための介護 安眠を促す介助の技法 利用者の状態・状況に応じた介助の留意点  他の職種の役割と協働  終末期の介護 終末期における介護の意義、目的 終末期における利用者のアセスメント  医療との連携 終末期における介護 臨終時の介護 グリーフケア	⑥買い物 ⑦家庭経営、家計の管理 ・感覚機能が低下している人の介助の留意点 ・運動機能が低下している人の介助の留意点 ・認知・知覚機能が低下している人の介助の留意点  ・ICFの視点にもとづくアセスメント  ・安眠のための介護の工夫  ・感覚機能が低下している人の介助の留意点 ・運動機能が低下している人の介助の留意点 ・認知・知覚機能が低下している人の介助の留意点 ・不眠時の対応  ・終末期における尊厳の保持 ・事前意思確認 ・ICFの視点にもとづくアセスメント  看取りのための制度(重度化対応加算、看取り介護加算)  ・臨終時の対応
介護過程	150	他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。	介護過程の意義 介護過程の展開  介護過程の実践的展開  介護過程とチームアプローチ	介護過程の意義、目的・目標 情報収集とアセスメント 課題、目標  計画 実施 評価  自立に向けた介護過程の展開の実際  利用者の状態・状況に応じた介護過程の展開の実際  介護過程とチームアプローチ ・ケースカンファレンス ・サービス担当者会議 ・介護過程とケアプラン(介護サービス計画) ・他の職種との連携 ・その他
介護総合演習	120	実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習後の事例報告会または実習期間中に学生が養成施設等において学習する日を計画的に設けるなど、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。介護総合演習については、実習と組み合わせての学習とする。		
介護実習	450	①個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する学習とする。  ②個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する学習とする。		
小計	1260			



- 〔目的〕  
 1. 介護実践に必要な知識という観点から、からだところのしくみについての知識を養う。  
 2. 増大している認知症や知的障害、精神障害、発達障害等の分野で必要とされる心理的社会的なケアについての基礎的な知識を養う。

教育内容	時間数	ねらい	教育に含むべき事項	想定される教育内容の例
発達と老化の理解	60	発達の観点からの老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する学習とする。	人間の成長と発達の基礎的理解  老年期の発達と成熟  老化に伴うところとからだの変化と日常生活  高齢者と健康	人間の成長と発達  老年期の定義(WHO、老人福祉法、老人保健法の老人医療制度)  老年期の発達課題  老化に伴う心身の変化の特徴  老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響  高齢者の心理  高齢者の疾病と生活上の留意点  高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点  保健医療職との連携  ・発達の定義 ・発達段階 ・発達課題 ・その他  ・人格と尊厳、老いの価値、喪失体験、セクシュアリティ、その他  ・防衛反応(反射神経)の変化 ・回復力(抵抗力)の変化 ・適応力(順応力)の変化 ・身体的機能の変化と日常生活への影響 ・知的・認知機能の変化と日常生活への影響 ・精神的機能の変化と日常生活への影響 ・その他 ・老化を受けとめる高齢者の気持ち ・社会や家庭での役割を失う高齢者の気持ち ・障害を受けとめる高齢者の気持ち ・友人との別れを受けとめる高齢者の気持ち ・経済的不安を抱える高齢者の気持ち ・その他 ・高齢者の症状の現れかたの特徴 ・高齢者の体の不調の訴え(痛み、かゆみ、不眠、冷え、その他)
認知症の理解	60	認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習とする。	認知症を取り巻く状況  医学的側面から見た認知症の基礎  認知症に伴うところとからだの変化と日常生活	認知症ケアの歴史 認知症ケアの理念 認知症高齢者の現状と今後 認知症に関する行政の方針と施策  認知症による障害  認知症と間違えられやすい症状  認知症の原因となる主な病気の症状の特徴  若年性認知症 病院で行われる検査、治療の実際  認知症の人の特徴的な心理・行動  ・認知症高齢者の数の推移、その他 ・認知症高齢者支援対策の概要(相談対策の整備、在宅対策、施設対策、権利擁護対策、地域密着型サービス、認知症地域支援体制構築等推進事業、認知省高齢者の自立度、その他)  ・記憶障害 ・見当識障害 ・失語、失行、失認、その他 ・うつ病 ・せん妄 ・アルツハイマー病 ・脳血管性疾患 ・レビー小体病 ・ピック病 ・クロイツフェルト・ヤコブ病 ・その他(慢性硬膜外血腫、等)  ・検査 ・治療 ・予防 ・認知症が及ぼす心理的影響 ・認知症の人の特徴的な行動障害

こころとからだのしくみ

教育内容	時間数	ねらい	教育に含むべき事項	想定される教育内容の例
			<p>認知症に伴うと機能の変化と日常生活への影響</p> <p>連携と協働</p> <p>地域におけるサポート体制</p> <p>チームアプローチ</p> <p>家族への支援</p>	<p>・周辺症状の背景にある、認知症のある人の特徴的なこころの理解(混乱、不安、怯え、孤独感、怒り、悲しみ、その他)</p> <p>・認知症の人の特性を踏まえたアセスメント(保たれている能力と低下している能力の把握、家族との関係の把握、その他)</p> <p>・環境変化が認知症の人に与える影響(なじみの人間関係、居住環境、その他)</p> <p>・その他</p> <p>・地域包括支援センターの役割・機能</p> <p>・コミュニティ 地域連携、町づくり</p> <p>・ボランティアや認知症サポーターの役割・機能</p> <p>・多職種協働の継続的ケア</p> <p>・家族の認知症の受容の過程での援助</p> <p>・家族の介護力の評価</p> <p>・家族のレスパイト</p> <p>・その他</p>
障害の理解	60	障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習とする。	<p>障害の基礎的理解</p> <p>障害の医学的側面の基礎的知識</p> <p>連携と協働</p> <p>家族への支援</p>	<p>障害の概念</p> <p>障害者福祉の基本理念</p> <p>身体障害</p> <p>精神障害</p> <p>知的障害</p> <p>発達障害</p> <p>難病</p> <p>障害のある人の心理</p> <p>障害に伴う機能の変化と日常生活への影響</p> <p>地域におけるサポート体制</p> <p>チームアプローチ</p> <p>家族への支援</p> <p>・障害の捉えかた、ICIDH(国際障害分類)とからICF(国際生活機能分類)への変遷、その他</p> <p>・ノーマライゼーション、リハビリテーション、国際障害者年の理念、その他</p> <p>・視覚障害の種類と原因と特性</p> <p>・聴覚障害、言語機能障害種類と原因と特性</p> <p>・肢体不自由の種類と原因と特性</p> <p>・内部障害の種類と原因と特性</p> <p>・精神障害の種類と原因と特性</p> <p>・知的障害の種類と原因と特性</p> <p>・発達障害の種類と原因と特性</p> <p>・難病の種類と原因と特性</p> <p>・障害が及ぼす心理的影響</p> <p>・障害の受容</p> <p>・適応と適応規制、その他</p> <p>・障害の人の特性を踏まえたアセスメント (保たれている能力と低下している能力の把握、 家族との関係の把握)</p> <p>・行政・関係機関との連携</p> <p>・地域自立支援協議会との連携</p> <p>・その他</p> <p>・他の福祉職種との連携</p> <p>・保健医療職種との連携</p> <p>・その他</p> <p>・家族の障害の受容の過程での援助</p> <p>・家族の介護力の評価</p> <p>・家族のレスパイト</p> <p>・その他</p>
こころとからだのしくみ	120	介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービス提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学習とする。	こころのしくみの理解	<p>人間の欲求の基本的理解</p> <p>自己概念と尊厳</p> <p>こころのしくみの基礎</p> <p>・基本的欲求</p> <p>・社会的欲求</p> <p>・その他</p> <p>・自己概念に影響する要因</p> <p>・自立への意欲と自己概念</p> <p>・自己実現といきがい</p> <p>・その他</p> <p>・こころのしくみに関する諸理論</p> <p>・思考のしくみ</p> <p>・学習・記憶・思考のしくみ</p> <p>・感情のしくみ</p> <p>・意欲・動機づけのしくみ</p> <p>・適応のしくみ</p> <p>・その他</p>

教育内容	時間数	ねらい	教育に含むべき事項	想定される教育内容の例
			<p>からだのしくみの理解</p> <p>身じたくに関連したところとからだのしくみ</p> <p>移動に関連したところとからだのしくみ</p> <p>食事に関連したところとからだのしくみ</p>	<p>からだのしくみの基礎</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生命の維持・恒常のしくみ(体温、呼吸、脈拍、血圧、その他)</li> <li>・人体部位の名称</li> <li>・ボディメカニクス</li> <li>・関節の可動域</li> <li>・その他</li> </ul> <p>身じたくに関連したところとからだの基礎知識</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身じたくの行為の生理的意味</li> <li>・爪の構造と機能</li> <li>・毛髪の構造と機能</li> <li>・その他</li> </ul> <p>身じたくに関連したところとからだのしくみ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・口腔の清潔のしくみ</li> <li>・口臭のしくみ</li> <li>・その他</li> </ul> <p>機能の低下・障害が及ぼす整容行動への影響</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・口腔の清潔に関する機能の低下・障害の原因</li> <li>・機能の低下・障害が及ぼす口腔の清潔への影響</li> <li>・その他</li> </ul> <p>生活場面におけるところとからだの変化の気づきと医療職との連携</p> <p>移動に関連したところとからだの基礎知識</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・移動行為の生理的意味</li> <li>・重心の移動、バランス</li> <li>・良肢位</li> <li>・その他</li> </ul> <p>移動に関連したところとからだのしくみ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全・安楽な移動、姿勢・体位の保持のしくみ</li> <li>・立位・座位保持のしくみ</li> <li>・歩行のしくみ</li> <li>・筋力・骨の強化のしくみ</li> <li>・その他</li> </ul> <p>機能の低下・障害が及ぼす移動への影響</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・移動に関する機能の低下・障害の原因</li> <li>・機能の低下・障害が及ぼす移動への影響(骨折、廃用症候群、褥瘡、その他)</li> <li>・運動が及ぼす身体への負担</li> <li>・その他</li> </ul> <p>生活場面におけるところとからだの変化の気づきと医療職との連携</p> <p>食事に関連したところとからだの基礎知識</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・からだをつくる栄養素</li> <li>・1日に必要な栄養量</li> <li>・1日に必要な水分量</li> <li>・その他</li> </ul> <p>食べることに関連したからだところのしくみ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食べることの生理的意味</li> <li>・食欲・おいしさを感じるしくみ(空腹・満腹、食欲に影響する因子、視覚・味覚・嗅覚、その他)</li> <li>・のどが渇くしくみ</li> <li>・食べるしくみ <ul style="list-style-type: none"> <li>食物を口まで運ぶ(視覚の情報、手の機能、姿勢と運動)</li> <li>食物の性質の判断(視覚、嗅覚からの情報、過去の記憶)</li> <li>食物にあった口の準備(筋肉、神経、唾液の分泌)</li> <li>咀嚼運動</li> <li>嚥下運動・嚥下反射</li> <li>消化</li> </ul> </li> <li>・その他</li> </ul> <p>機能の低下・障害が及ぼす食事への影響</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食べることに関する機能の低下・障害の原因</li> <li>・機能の低下・障害が及ぼす食事への影響(低血糖・高血糖、嚥下障害、誤嚥のある人の食行動、食欲不振のある人の食行動、食事制限が必要な人の食行動、その他)</li> </ul> <p>生活場面におけるところとからだの変化の気づきと医療職との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・誤嚥を予防するための日常生活での留意点</li> <li>・嚥下障害に気づく観察のポイント</li> <li>・脱水に気づく観察のポイント</li> </ul>

教育内容	時間数	ねらい	教育に含むべき事項	想定される教育内容の例
			<p>入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみ</p> <p>清潔保持に関連したこころとからだのしくみ</p> <p>機能の低下・障害が及ぼす入浴、清潔保持への影響</p> <p>生活場面におけるこころとからだの変化の気づきと医療職との連携</p> <p>排泄に関連したこころとからだのしくみ</p> <p>排泄に関連したこころとからだのしくみ</p> <p>機能の低下・障害が及ぼす排泄への影響</p> <p>生活場面におけるこころとからだの変化の気づきと医療職との連携</p> <p>睡眠に関連したこころとからだのしくみ</p> <p>睡眠に関連したこころとからだのしくみ</p> <p>機能の低下・障害が及ぼす睡眠への影響</p> <p>生活場面におけるこころとからだの変化の気づきと医療職との連携</p> <p>死にゆく人のこころとからだのしくみ</p> <p>「死」の捉え方</p> <p>終末期から危篤、死亡時のからだの理解</p> <p>「死」に対するこころの理解</p> <p>医療職との連携</p>	<p>清潔保持の生理的意味</p> <p>清潔保持に関連したからだの器官</p> <p>その他</p> <p>リラックス、爽快感を感じるしくみ</p> <p>皮膚の汚れのしくみ</p> <p>発汗のしくみ</p> <p>その他</p> <p>入浴、清潔保持に関する機能の低下・障害の原因</p> <p>機能の低下・障害が及ぼす入浴、清潔保持への影響（かゆみ、かぶれ、褥瘡、その他）</p> <p>入浴が及ぼすからだへの負担</p> <p>その他</p> <p>排泄の生理的意味</p> <p>便の性状、量、回数</p> <p>尿の性状、量、回数</p> <p>尿の生成のしくみ</p> <p>便の生成（消化・吸収）のしくみ</p> <p>その他</p> <p>排尿のしくみ</p> <p>排便のしくみ</p> <p>その他</p> <p>排泄に関連する機能の低下・障害の原因</p> <p>機能の低下・障害が及ぼす排泄への影響（便秘、下痢、失禁、その他）</p> <p>その他</p> <p>日常生活で便秘・下痢に気づくための観察のポイント</p> <p>睡眠の生理的意味</p> <p>睡眠時間</p> <p>睡眠のリズム</p> <p>睡眠に関連したからだの器官</p> <p>その他</p> <p>睡眠のしくみ</p> <p>その他</p> <p>睡眠に関連する機能の低下・障害の原因</p> <p>機能の低下・障害が及ぼす睡眠への影響</p> <p>その他</p> <p>生物学的な死</p> <p>法律的な死</p> <p>臨床的な死</p> <p>その他</p> <p>身体の機能の低下の特徴</p> <p>死後の身体的変化</p> <p>その他</p> <p>死に対する恐怖・不安</p> <p>「死」を受容する段階</p> <p>家族の「死」を受容する段階</p> <p>その他</p> <p>呼吸困難時に行われる医療の実際と介護の連携</p> <p>疼痛緩和のために行われる医療の実際と介護の連携</p> <p>その他</p>
小計	300			